


科目名	特別講究Ⅱ (高等教育の社会学)	必修/選択	選択必修	
	英語名: Special Seminar on Higher Education	単位数	2単位	
		担当教員	石原 朗子	
<b>【授業概要】</b>				
<p>本科目では、高等教育に関して個人（学生）から組織（大学等）、社会システムまでを俯瞰して見る視点を身につけることを目的とする。そのために、第一段階として、自身の現場をテーマに教育をミクロ・メゾ・マクロの観点で検討をし、その過程で高等教育に関わるモデルについても学修する。さらに、第二段階として、身につけた視点を活かして、各高等教育機関をめぐる状況を学び、個人への教育の在り方、教育と社会の関係性を検討する。最終段階では、総括として、再度、自身の現場に立ち返り、その課題の解決と展望を検討し、結果をまとめ、博士論文に活かす。</p>				
<b>【キーワード】</b>				
ミクロレベル・マクロレベル、メゾレベル、トロウ・モデル、I-E-0モデル、学位の意味、高大接続				
<b>【授業の到達目標】</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>自身の現場に関して、教育をミクロ・メゾ・マクロの3つの層に分けて検討する視点を身につけ、自身の取り組む課題がどのレベルに強くかかわるかを理解することができる。</li> <li>自身の現場への視点を起点としながらも、他のレベルの視点も合わせて考えてみるすることができる。</li> <li>上記に関わり、自身の現場への視点を起点としながらも、高等教育全体像（国内外の状況）を自身の現場とのかかわりの中で把握し、自組織の立ち位置やその強み・弱みを認識できる。</li> <li>認識した強みや弱みをもとに、自組織の課題を解決する方策を、自分の研究上の立場に沿って展開できる。</li> </ol>				
<b>【教育の方法】</b>				
スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
<b>【授業計画】</b>				
回	内 容			
1	本授業の目的・学修内容・到達目標の共有のためのオリエンテーション (SC)			
2	日本の高等教育を知る：現状・仕組みを概観する			
3	学修Ⅰ－①：自身の教育現場の学生の状況を検討する			
4	学修Ⅰ－②：自身の教育現場の教育上の特色を検討する			
5	学修Ⅰ－③：自身の教育現場の組織的な特色を検討する			
6	学修Ⅰ－④：自身の教育現場を取り巻く環境を検討する			
7	学修Ⅰ－⑤：自身の教育現場についてミクロ・メゾ・マクロの視点から包括的に検討をする (SC)			
8	学修Ⅱ－①：高等教育を段階別にみる (ユニバーサル化時代の学士課程教育)			
9	学修Ⅱ－②：高等教育を段階別にみる (大学院修了の意味)			
10	学修Ⅱ－③：高等教育を段階別にみる (専門学校教育の現状)			
11	学修Ⅱ－④：高等教育を段階別にみる (高大接続)			
12	学修Ⅱ－⑤：国内の高等教育を俯瞰する (SC)			
13	学修Ⅲ－①：世界と日本の高等教育 (グローバル化時代の高等教育)			
14	学修Ⅲ－②：世界と日本の高等教育 (MOOCs やオンラインコース)			
15	学修内容の総括と学生自身の現場の展望の検討 (SC)			

## 試験

### 【履修にあたっての準備・履修上の注意点】

初回スクーリング受講後は、指定したテキストを読み、教員が提示した課題を行っていく。履修者にはテキストの学修の指針となる学修の手引きを配布し、学生はそれに従って学修を進める。その他、各学生の個別の研究テーマや背景に沿った内容に関しては、初回のスクーリングで相談と情報提供を行う。

### 【スクーリングでの学修内容】

- スクーリングは、学修の初期に、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じて何をを目指すかを学生と教員の相互で確認するために行う。さらに、学修の中期に段階に応じて、学修の後期に、学修のまとめとしてもスクーリングを行う。
- 学修の初期のスクーリングは、学生自身の教育現場についての情報共有を通じて、学生自身の抱える課題を確認し、自身の現場を含む高等教育の環境についての理解度を確認する。
- 学修中期にも2回スクーリングを実施する。1回目は第一段階の学修（学修Ⅰ）のまとめとして実施する。その中で、学生は自身の教育現場と高等教育の関わりについて現状での理解を教員に報告、共有し、教員から今後の学修についての指導・助言を受ける。そのために、事前に、指摘文献（テキスト）による学修と、自身の教育現場のまとめのミニレポート作成を行い、スクーリングでの双方向の議論を踏まえて、事後に、ミニレポートの改訂版をレポートとしてまとめる（レポート1）。
- このスクーリングの成果を踏まえて提出したレポートは、中期2回目のスクーリング前に教員が添削し、返却を行う。中期2回目のスクーリングは、第二段階の学修（学修Ⅱ）のまとめとして実施する。その中では、他の高等教育機関のありようを学んだ成果を踏まえ、自身の教育現場を他との比較で捉える。そのために、事前に、高等教育の各段階における現状と課題をテキスト学修や関連文献・先行研究の検討により学修するとともに、返却されたレポート1のコメントを参考にしつつ、事前レポートを作成する（レポート2）。その内容は、自身の学校を含む教育課程（専修学校専門課程、学士課程、修士課程等）についての現状と、自身の学校の位置づけを分析したものであり、このレポートを準備し、事前に提出することを原則とする。このレポートは終期のスクーリングまでに教員が添削し、返却を行う。
- 学修の終期のスクーリングでは、返却されたレポートの内容と、学生自身が現代の高等教育の最新トピックについて学修した成果を持ち寄り、教員と議論する形で行う。このスクーリングでは、学生自身の博士研究指導に関わって、1年次であればテーマ設定にこの科目の学修がどのように生かせるか、2年次であれば研究成果論文にこの科目で得た知見がどのように生かせるかを検討する。学生は、このスクーリングの後、科目修得試験を受験する。この試験はレポート1・2を総合し、加筆修正したものとし、自身の学校の置かれた現状を把握し、その現状把握が教育現場での課題解決にいかにかかせるかを示すことを目標とする。
- スクーリングは、上記の時期を含み、合計4コマ分6時間以上をめぐり行う。
- スクーリング時の課題の詳細は、オリエンテーション時に説明する。

### 【評価方法】

合否については、レポート2本（50%）、科目修得試験（50%）で評価する。成績評価の際には、スクーリングでの学修や学修過程での姿勢を含めて総合的に評価する。

### 【教科書】

以下の教科書は概論に相当するものであるため、学修箇所は、初回スクーリングで指定する。

- ・東京大学 大学経営・政策コース（2018）『大学経営・政策入門』、東信堂
- ・広田照幸著（2019）『大学論を組み替える 新たな議論のために』、名古屋大学出版会
- ・広田照幸ほか編集（2013）『大衆化する大学－学生の多様化をどう見るか－』、岩波書店
- ・独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構「各国・地域の高等教育の質保証の基本情報」（<https://www.niad.ac.jp/consolidation/international/info/>）

このほか、各学生の状況（学校種、事前知識の程度、博士研究指導の段階）に応じて、適宜テキストを指定する。

### 【参考図書】

- ・橋本鉦市・阿曾沼明裕（企画編集）（2010・2011）リーディング日本の高等教育（全8巻）、玉川大学出版部

特に以下のものが参考になる。

中村高康編（2010）『大学への進学 選抜と接続』

杉谷祐美子編（2011）『大学の学び 教育内容と方法』

小方直幸編（2011）『大学から社会へ 人材育成と知の還元』

- ・濱中淳子（2013）『検証・学歴の効用』、勁草書房
  - ・吉田文（2014）『「再」取得学歴を問う—専門職大学院の教育と学習』、東信堂
  - ・阿曾沼明裕（2014）『アメリカの研究大学の大学院』、名古屋大学出版会
- そのほか、スクーリング時に紹介する。

**【教員メッセージ】**

日本では戦後順調に進学率が伸び、2人に1人は大学に進学します。そうした中で、世代により高等教育経験は異なっていますし、社会人になって大学院で学ぶ人も増えてきている時代です。

この科目では、日本の高等教育の変化を客観的、相対的に捉えていき、その結果を生かして、主体的に高等教育と自身の研究の関係を捉えていくことを目指します。また、その過程で教育社会学的な見方を学修します。そのなかで、自身の課題解決の手助けとなるようなフレームを学び、あるいは先行研究や活用可能な資料等に会うことができるよう学んでいくことを目指します。皆さんが学び、皆さんが教えている場の高等教育機関を見直すチャンスです。一緒に学びましょう。

**【備考】**

特記なし